

# 目次

1 文	10
§1 文の組み立て	10
§2 動詞の位置と文の種類	10
§3 肯定文と否定文	11
§4 疑問文への答え方	12
§5 形容詞文と名詞文	13
2 動詞の現在人称変化(1)	14
§1 人称代名詞	14
§2 不定詞と定動詞(現在形)	15
§3 現在人称変化の変わりだね	16
§4 seinの現在人称変化	17
3 名詞の性	18
§1 名詞の性と定冠詞	18
§2 文法上の性と自然の性	18
§3 文法上の性と不定冠詞	19
§4 文法上の性と人称代名詞	20
§5 性を区別するてがかり	20
§6 合成名詞の性	21
4 名詞の数	22
§1 複数形の型	22
§2 複数と定冠詞	23
§3 複数と不定冠詞	23
§4 可算名詞と不可算名詞	24
5 名詞・冠詞・人称代名詞の格変化	25
§1 名詞と定冠詞の格変化	25
§2 不定冠詞の格変化	26
§3 人称代名詞の格変化	27
§4 特殊な格変化をする名詞	27
6 冠詞類の格変化	29

§1 dieser型の変化と用法	29
§2 mein型(不定冠詞類)の変化	30
§3 keinとnichtの使い分け	31
7 前置詞	33
§1 支配する格が固定している前置詞	33
§2 3・4格支配の前置詞	34
§3 前置詞格の用法	35
§4 定冠詞との融合形	36
§5 代名詞との融合形	37
8 疑問詞	38
§1 疑問代名詞werとwas	38
§2 疑問代名詞welcher	39
§3 疑問代名詞was für ein	40
§4 疑問副詞	41
9 動詞の現在人称変化(2)	43
§1 a→ä型動詞	43
§2 e→i型動詞	44
§3 その他の語幹が変わる動詞	44
§4 werdenとhabenの現在人称変化	45
10 命令形	46
§1 duに対する命令形	46
§2 ihrに対する命令形	47
§3 Sieに対する命令形	47
§4 命令文に添える心態詞	47
11 接続詞	49
§1 並列接続詞	49
§2 従属接続詞	50
§3 従節を導く疑問詞	53

12 形容詞の用法と格変化	54
§1 述語的用法	54
§2 付加語的用法	55
§3 用法に制限のある形容詞	57
§4 形容詞の副詞・名詞への転用	58
13 形容詞と副詞の比較変化	60
§1 比較級・最上級の作り方	60
§2 原級を用いた比較	62
§3 比較級を用いた比較	63
§4 最上級を用いた比較	64
§5 比較級・最上級の絶対的用法	66
§6 比較級を用いた重要表現	66
14 動詞の3基本形	68
§1 規則動詞の3基本形	68
§2 不規則動詞	69
§3 過去分詞でge-がつかない動詞	70
§4 意味に応じて変化が異なる動詞	71
15 単純時制—現在形と過去形	73
§1 現在形の形式	73
§2 現在形の用法	73
§3 過去形の形式	75
§4 過去形の用法	75
16 複合時制(1)	
—現在完了と過去完了	77
§1 haben支配とsein支配の見分け方	77
§2 現在完了の用法	78
§3 過去完了の用法	79
§4 habenとseinの両方を支配する動詞	80
17 複合時制(2)	
—未来と未来完了	82
§1 未来形の用法	82
§2 未来完了の用法	84

18 話法の助動詞	85
§1 話法の助動詞の変化の特徴	85
§2 話法の助動詞の基本的な意味	87
§3 陳述緩和的用法	91
§4 構文的特徴	92
§5 話法の助動詞に準ずる動詞	94
19 複合動詞	
—分離動詞と非分離動詞	96
§1 前綴りの種類	96
§2 複合動詞の変化形	98
§3 前綴りの文法的機能	99
§4 前綴りのおもな意味機能	100
20 不定形の用法(1)	
—不定詞とzu不定詞	102
I 不定詞の用法	102
§1 さまざまな助動詞と	103
§2 一般動詞と	104
§3 名詞的用法	105
§4 独立不定詞句として	105
II zu不定詞句の用法	106
§1 名詞的用法	106
§2 形容詞的用法	107
§3 動詞的用法	108
§4 副詞的用法	109
§5 独立的用法	111
21 不定形の用法(2)—分詞	112
I 現在分詞の用法	113
§1 付加語的用法	113
§2 名詞的用法	114
§3 述語的用法	114
§4 副詞的用法	115
II 過去分詞の用法	116
§1 付加語的用法	116
§2 名詞的用法	117
§3 述語的用法	117
§4 副詞的用法	118

III 分詞構文	118
§1 時	118
§2 付帯状況	119
§3 原因・理由	119
§4 条件	119
§5 認容	119
§6 独立分詞構文	119
<b>22 受動態</b>	121
I werden 受動	121
§1 能動文から受動文への転換	121
§2 受動態の時制	123
§3 能動文の主語の受動文での表現	123
§4 werden 受動の制約	125
II sein 受動	127
§1 sein 受動の用法	127
§2 sein 受動文と形容詞文	127
III bekommen 受動	128
§1 bekommen 受動の用法	128
§2 bekommen 受動の制限	129
IV その他の受動表現	130
§1 haben 受動	130
§2 gehören 受動	130
§3 過去分詞を用いない受動相当構文	131
V 受動態の談話機能	133
§1 同一主題の維持	133
§2 動作主の省略	133
<b>23 代名詞(1)</b>	134
—再帰代名詞の用法	134
§1 再帰代名詞 sich	134
§2 再帰動詞	136
§3 再帰動詞と同義の一般動詞	139
§4 再帰代名詞の省略	139
§5 相互代名詞	140
§6 相互動詞	141
§7 再帰代名詞を用いた特殊構文	142

<b>24 代名詞(2)</b>	144
—不定代名詞と不定数詞	144
I 本来の不定代名詞の変化と用法	145
§1 格変化	145
§2 用法	145
II 不定数詞	148
§1 定冠詞型不定数詞	148
§2 不定冠詞型不定数詞	153
§3 形容詞型不定数詞と不変化型不定数詞	155
<b>25 代名詞(3)</b>	160
—指示代名詞と名詞の代用形	160
I 各指示代名詞の変化と用法	161
§1 der	161
§2 dieser と jener	164
§3 solcher	166
§4 derselbe	167
§5 derjenige	168
II 代名詞以外の代用形一名詞の転用	168
<b>26 代名詞(4)</b>	170
—関係代名詞と関係副詞	170
I 定関係代名詞 der と welcher	170
§1 der と welcher の変化	170
§2 der の基本的用法	171
§3 関係詞節の位置	173
§4 先行詞が代名詞の場合	174
§5 ネズミ捕り構造	175
§6 制限的用法と非制限的用法	175
§7 welcher の用法	177
II 不定関係代名詞 wer と was	177
§1 変化	177
§2 意味・用法	177
III 関係副詞	179
IV 関係節の短縮	181
§1 冠飾句	181
§2 挿入句・同格	181

§3 副詞句 / 前置詞句	182
§4 所有の2格	183
§5 合成語	183
<b>27 代名詞(5)—es の用法</b>	184
I 代用形としての es	184
§1 es が指示する対象の種類	184
§2 es が指示する対象の位置	186
II 形式語としての es	187
§1 形式主語	187
§2 形式目的語	189
§3 虚辞(穴埋め)の es	190
<b>28 数詞</b>	191
I 基数詞	191
§1 基数詞の形	191
§2 読み方の注意点	192
§3 名詞的用法	193
§4 基数詞の格変化	194
II 序数詞	194
§1 作り方	194
§2 変化	195
§3 序数詞の用法	195
III その他の数詞	196
§1 基数詞を基にして表す数	196
§2 序数詞を基にして作る数	198
§3 基数詞・序数詞のいずれでも表せる数	199
IV 日常生活で用いられる数・数式の読み方	200
§1 時間	200
§2 金額	203
§3 そのほかの数量の言い方	203
§4 数式の読み方	204
<b>29 接続法—接続法の形式</b>	205
§1 接続法第I式の作り方	205
§2 接続法第II式の作り方	206
§3 接続法の時制	208

<b>30 接続法の用法(1)</b>	209
—要求話法	209
§1 要求話法とは	209
§2 願望を表す要求話法	209
§3 取り決めの要求話法	211
§4 無関係の要求話法	211
§5 成句化した要求話法	212
§6 damit 節の第I式	212
<b>31 接続法の用法(2)—仮定話法</b>	213
I 仮定話法	213
§1 却下条件	214
§2 würde-形での言い換え	214
II 仮定話法と時制	215
§1 仮定話法現在	215
§2 仮定話法過去	216
III 仮定話法のヴァリエーション	216
§1 条件節のヴァリエーション	216
§2 帰結節の独立用法	217
§3 条件節の独立用法	218
IV 否定話法	219
§1 独立文の否定話法	219
§2 従節の否定話法	220
V 外交話法(婉曲話法)	221
§1 依頼	221
§2 提案	221
§3 欲求	222
§4 推量・忠告・主張など	222
§5 安堵・満足	222
<b>32 接続法の用法(3)—間接話法</b>	223
I 平叙文の間接話法への転換	223
§1 引用部の定形の法と時制の転換	224
§2 直接引用部の法が第II式の場合	225
§3 指標的表現の転換	225
II 引用部が平叙文以外のと時の間接話法への転換—間接疑問文と間接命令文	226
§1 補足疑問文の転換	226

§2 決定疑問文の転換 227  
 §3 命令文の転換 227  
 III 間接話法に関するその他の細則 228  
 §1 真理・確信は直説法で 228  
 §2 名詞句に接続する間接引用部 229  
 §3 間接引用部の継続 229  
 §4 接続法以外による間接引用の表現 229  
 IV 体験話法 230  
 §1 直接話法と体験話法の対応 230  
 §2 体験話法の実例 231

33 文の構成 (1)―文肢 ..... 232  
 I 文肢とその主要素 232  
 §1 文肢とは 232  
 §2 文肢の種類 233  
 §3 補足語と添加語 233  
 §4 補足語と添加語の区別がまぎらわしい例 234  
 §5 必須補足語と任意補足語 235  
 §6 添加語の形態と種類 235  
 II 文肢の付属要素―付加語 237  
 §1 付加語の形態 237  
 §2 付加語の意味用法 238  
 §3 付加語形容詞の配列 238  
 §4 文の名詞句への転換 240

34 文の構成 (2)  
 一結合価と基本文型 ..... 241  
 I 動詞文の文型 242  
 §1 基本文型 242  
 §2 1 項動詞を用いた文型 243  
 §3 2 項動詞を用いた文型―概観 243  
 §4 目的語を補足語とする 2 項動詞 244  
 §5 3 項動詞を用いた文型―概観 252  
 §6 3 項他動詞を用いた文型 254  
 §7 非人称動詞 258  
 II 形容詞文の文型 259  
 §1  $\alpha=4$  格目的語の形容詞 260

§2  $\alpha=3$  格目的語の形容詞 260  
 §3  $\alpha=2$  格目的語の形容詞 261  
 §4  $\alpha=$  前置詞格目的語の形容詞 262  
 §5  $\alpha=$  状況語の形容詞 264

35 文の構成 (3)  
 一基本文型の変更 ..... 265  
 I 動詞価の削減 266  
 §1 受動 266  
 §2 非人称化 266  
 §3 補足語の取込み 266  
 §4 「場所」を表す分離前綴り 267  
 §5 補足語の省略 267  
 II 動詞価の拡張 267  
 §1 使役構文 267  
 §2 使役以外の構文 267  
 III 動詞価の質的変更―文成分の再構成 270  
 §1 充満動詞 270  
 §2 自動詞の他動詞化 270  
 §3 他動詞の自動詞化 271  
 §4 接触・傷害動詞 271  
 §5 3 格目的語と前置詞格目的語の交替 271

36 文の構成 (4)  
 一叙法要素 ..... 273  
 I 文副詞 274  
 §1 真偽判断の文副詞 274  
 §2 価値判断の文副詞 276  
 II その他の不変化詞 278  
 §1 心態詞 278  
 §2 焦点化副詞 279  
 §3 文相当詞 279  
 §4 談話信号 281

37 語順 (1)―動詞の位置 ..... 283  
 I 動詞の位置 283  
 §1 動詞第 2 位文 284

§2 定動詞第 1 位文とその用法 285  
 §3 定動詞後置文 285  
 II 不定形動詞群の配列 286  
 §1 動詞の序列 287  
 §2 定動詞後置文での不定形動詞群の配列 287

38 語順 (2)―文肢の配列 ..... 289  
 I 枠構造の種類 289  
 §1 文レベルの枠 289  
 §2 語・句・節レベルの枠 290  
 II 前域, 後域, 域外要素 290  
 §1 前域 291  
 §2 後域 293  
 §3 域外要素 294  
 III 中域での語順 295  
 §1 文法的原則 295  
 §2 意味的原則 296  
 §3 形態的原則 297  
 §4 伝達的原則 297  
 §5 原則どうしの衝突 298

39 冠詞の用法 ..... 299  
 I 冠詞の基本的用法 300  
 §1 言語的文脈に基づいた特定 300  
 §2 場面に基づいた特定 302

§3 共有する知識に基づいた特定 302  
 II 冠詞の特殊用法 303  
 §1 定冠詞の特殊用法 303  
 §2 不定冠詞の特殊用法 304  
 §3 無冠詞の特殊用法 307  
 III 冠詞の総称的な用法 312  
 §1 定冠詞の総称的用法 312  
 §2 不定冠詞の総称的用法 313  
 §3 無冠詞の総称的用法 313

40 格の用法と同格 ..... 314  
 I 格の用法 314  
 §1 1 格の用法 314  
 §2 2 格の用法 315  
 §3 3 格の用法 318  
 §4 4 格の用法 319  
 II 同格 321  
 §1 弛緩同格 321  
 §2 緊密同格 323  
 §3 als/wie つき同格 326  
 §4 多重同格 327

解答 ..... 328  
 和文索引 ..... 335  
 欧文索引 ..... 344  
 正書法について ..... 348

▶ 本文中の例文(語・句・節)において、頭に「\*」のついているものはドイツ語の正しい表現としては成立しないということを表しています(これを不適格な表現と呼びます)。

- 例: i) Hans besitzt einen Porsche. → \*Ein Porsche wird besessen.  
 ii) der erholte Lehrer / \*der sich erholte Lehrer  
 iii) Peter und Heinz streiten oft *miteinander* / \*mit sich.

i) は左から右の文への言い換えが不可能であることを, ii) は左側の句に対して右側の表現が不可能であることを, iii) は *miteinander* を *mit sich* とすることが不可能であることをそれぞれ示しています。

▶ (⇒ 139) の 139 は 139 ページを表しています。(⇒ §3) はその章の第 3 節を表しています。